

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム ふじの里 やまぶき棟		
所在地	〒023-1762 奥州市江刺藤里字平37番地2		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふじの里では、私たちは”あふれる思い”であなたに寄り添い、笑顔が喜びになる暮らしを創造します。という理念のもと地域との交流活動を積極的に取り組んでおりますが、本年はコロナウイルス感染防止の為、保育園・小学校等との交流を控え施設内での行事を、例年通り、新しい生活様式を意識し行っている。
面会も、ご利用者様とご家族様との繋がりを大切にし、LINEにてオンライン面会の対応も随時行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、田畑や農家が点在する丘陵地に立地し、施設前には主要道路が走り車の往来は多い。事業所の理念の一つとして、地域との連携と交流を掲げており、通常であれば夏祭りの開催や小中学校との交流、地元ボランティアの来訪等が活発に行われている。コロナ禍のため多くの交流機会を自粛しているものの、取り組みの意欲には強いものがあり、コロナ禍終息後の活動の再開が大いに期待できる。外出支援も思うように出来ていない状態が続いているが、その中にあっても希望に応じてドライブに出かけられるよう工夫し、利用者の希望に寄り添うケアを実践している。温泉水を運搬して入浴サービスを続けており、利用者の大きな楽しみとなっている。また、協力医師の支援を受けて、看取りの取り組みも行っており、事業所の強みの一つとなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念、「あふれる想いで、あなたに寄りそう」を各ユニットでに掲示し、職員と共有できるように心がけている。また、利用者の支援に関しても、理念に基づく対応が出来るよう、管理者・職員が話し合い実践している。	一昨年、新たに策定した経営理念を各ユニットに掲示し、職員間で共有している。職員は、人格の尊重、利用者の立場に立ったサービスの提供に努めている。管理者は、日々の介護支援で対応に迷った際には、経営理念に立ち返って対応するよう、職員とともに話し合いながら、よりよい支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年では地区振興会、保育所、学校との連携を密にとり、利用者様と地域の皆さまが交流できる機会を作っているが、令和2年度は、コロナウィルスの感染防止の為、外部との交流は控えている。	例年であれば、地区の運動会や地元の保育園、小中学校との交流、ボランティアの受入れ、婦人会の来訪などが活発に行われ、事業所での夏祭り等にも地域の多くの方々が参加していた。今年は、コロナ禍で交流が制限されているが、その状況下において、子ども達とのオンライン交流会が出来ないか検討しているとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生の職業体験にて、利用者の様子や職員の1日の流れを理解していただき、最後のまとめに当事業所の特色と介護の基本について説明を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年の運営推進会議は、コロナウィルス感染防止の為、書類にて利用者の入退居状況、活動報告を行っている。助言等ある場合は返信用の書類にてFAXでおねがいしている	コロナ禍の影響で、4、6、8月は書面開催となっている。メンバーは地域振興会の会長や地区長、駐在所員、市職員等であり、今後は民生委員も加えて地域との連携を更に強めることとしている。会議では地域の情報や様々な意見を頂き、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本年の運営推進会議はコロナウィルス感染防止の為、書類にて地域包括支援センターの職員に対し、入居者の状況並びに入居者の状況について報告し、助言を頂いている。	運営推進会議のメンバーに市の担当課長が参加しており、入居者の生活状況や地域との連携・交流の様子などを把握してもらっているほか、行政情報の提供等もいただいている。昨年は夏祭り行事のスイカ割りにも参加してもらい、連携は上手く図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束は行わないと、入居契約締結時に説明している。また、身体拘束廃止委員会において、身体拘束を行わない介護の啓蒙活動を行っている。	身体拘束廃止に関する指針は作成済みであり、委員会を3ヵ月毎に開催している。身体拘束に関する研修会には全職員が参加している。玄関の施錠は夜8時から朝5時としている。スピーチロックについては、時々見受けられ、その都度注意するとともに勉強会のテーマとしても話し合い解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会にて身体拘束と高齢者虐待についての理解を深め、今年度、職員全員にも周知していく計画はしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで、日常生活自立支援事業や成年後見制度を使用している利用者はいなかった為、職員の理解は薄い。 過去に成年後見制度を使用している利用者に関わった職員はいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安を相手の立場で考える様接し、丁寧に説明をするよう心掛けるとともに、意向確認書にて、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し意見がある場合は記入し入れてもらうよう話をしている。	多くの利用者が自分の意思を言葉で伝えることができ、食事や外出の希望などが話される。家族からは通院の際の来訪時などにお話を伺う他、月1回の「ふじの里だより」には利用者の写真と担当職員の一言メモも添え、好評を得ている。また、オンライン面会にも取り組み始めている。	コロナ禍で家族との面会機会が少ない状況でもあり、意見等を引き出す一つの方法として、家族アンケートの実施について検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者が、意識的に職員との会話をし、運営に関する意見や提案を受けている。	毎月の職員カンファレンスの他、普段の業務の中で日常的に職員の意見や要望が出されることが多い。冷房の設定温度変更などの意見が出されて、改善した例などがある。定期的な個人面談は行われていない。	管理者との個人面談は、職員にとっては個人的な事柄も話せる大切な機会と思われ、定期的実施されるよう期待します。

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員で話しやすい環境があり、垣根のない会話から、各自が向上心、やりがいを持てる職場環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮とともに、介護支援専門員の受験、介護福祉士の受験、実践者研修、を受講した者がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の会員であり、他施設研修も考えているが今年はコロナウィルスの為控えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居内定した場合、本人様と面会し、ホームにて、どのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明を心がけている。不安に思った所があった場合いつでも相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からホームの入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様の意向を伺い、質問に応じ納得していただけるよう努めている。利用前であっても都度相談に応じられる事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様との面会を通し、今一番困っている事、一番したいことを明確にして、どのサービスが一番良いか、話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にテーブルにての食事や、食器拭き、おしぼり作り、洗濯物干し、洗濯物たたみをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月の便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合うことが出来る様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染防止の為、面会等の問い合わせに対し、LINE面会を提案している。	コロナ禍の前は家族で外出して墓参りしたり、馴染みの美容院に行っていたが、今の状況では難しい。それでも、ドライブに出かけた際に自宅の周辺を回ることによって少しでも関係性が途切れないようにし支援している。2ヵ月毎に来訪する理容師が新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で隣同士に座ってもらったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にも、相談に応じられる事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者ごとに担当職員を決め、入居者とできる限り話し合う時間を作っている。	多くの利用者が、自分の思いを伝えることが出来る。居室担当の職員は、利用者とは会話する時間を設け、その中で出た言葉を逃さずにチェックし、普段の介護を通じて把握した事柄を含め、職員間で共有しながら介護に当たっている。意思疎通が難しい方には、素振りや表情などから意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するよう努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録に毎日、バイタル・食事摂取量・レク・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとに、課題分析表にてカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が入居者の状況をモニタリングし、計画作成担当者が中心となって、ケアプラン原案を作成し、管理者、介護支援専門員を加えてカンファレンスを行い、より、入居者様の意向を踏まえた生活ニーズとその支援内容を決定している。	居室担当者のモニタリング結果を基礎に、計画作成担当者が原案を作成し、管理者、介護支援専門員等の職員を交えたカンファレンスを経て、利用者一人一人の意向や生活状況に合わせた介護計画を作成している。計画は3か月毎に見直し、医師等の意見も盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、経過記録を元にモニタリングをし、連絡ノートにて日々の様子を記録し、職員間で情報を共有しながら実績、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせたケアに必要な事項や福祉用具の検討を常にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区民運動会、近隣小学校から運動会、学習発表会のお招きがあり見学にて参加しているが、今年はコロナウィルスの感染防止の為、行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者様・ご家族様の医療に関するニーズを伺い、かかりつけ医を決めている。	大半の利用者が、事業所の協力医である市内のクリニックをかかりつけ医とし、通院には職員が付き添っている。他の3人は入居前からのかかりつけ医(精神科等)を家族の付き添いで受診している。隣接のデイサービスの看護職員からは、入居者の健康管理上のアドバイスを受けている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、体調など状況に応じ都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めスムーズにホームに戻って来られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に当たり、ご家族様に対し、入居者様の終末期における意向を確認している。 今年、看取りを行ったケースがあり、ご家族様と協力医、ホームにて対応を話し合い、全職員間で共有し行った。	重度化した場合の対応については、入居時に本人や家族に説明し、意向を確認している。容態の急変や重度化した場合には、医師による終末期の診断を踏まえて、医師・家族・事業所職員でのカンファレンスを実施し、事業所でのターミナルケアの実施又は医療機関への入院、若しくはその他の方法を検討し決定する。今年6月にも、利用者の状態を見ながら、全職員がカンファレンスを通じて共有し合う形で、看取りを行っている。今後も希望に応じ対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルにのっとり、変化が見られた場合は社長及び管理者へ連絡し指示を仰いでいる。 緊急性がある場合は、救急へ連絡をすることとしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、夜間訓練を実施しているが。避難の態勢については一部地域住民の協力は得られるが、現実的には近隣住民が仕事の為留守が多く難しいことも考えられ、警備会社と契約し、火災時の対応をお願いしている。	ハザードマップでは洪水や土砂崩れ等の危険地域に指定されていない。年2回総合訓練と夜間想定避難訓練を行っている。車椅子使用者が4人いて、夜間避難時に不安を感じており、警備会社からの応援と併せ、近隣住民の支援者の確保を急ぎたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には耳元で話す。動作で推し量る等本人の意向の把握に努めている。また失禁等での失敗もさり気なくカバーし、誇りを損ねないようにしている。	利用者の尊厳に配慮し、特にトイレ誘導時や入浴の際の言葉遣いには留意している。トイレの声掛けでは、言葉ではなくジェスチャーで表現して理解する方もいる。失禁時には特に配慮して声掛けて、本人の気持ちが落ち込まないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を職員からの問いかけによって引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声がけにて確認し、本人の自発性を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事の中で、いつもとは違うメニューを職員内で話し合い提供した。また日常では、茶碗洗い、茶碗拭き等出来る事に取り組んでもらっている。	献立は本社の栄養士が作成し、調理は職員が交替で行っている。行事食では、利用者の希望にも配慮して職員で話し合いをして提供している。ちらし寿司や夏祭りの焼きそば、焼き鳥、年越しの刺身などは好評である。利用者は、茶碗拭きやおしぼり作り等を手伝うほか、秋には干し柿作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事のバランスを考えたメニューを提供し、実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、排泄のパターンを把握し、適切な時間に声掛けにより、排泄や自立に向けた支援をしている。夜間に限らず、ポータブルトイレは使用していない。	排泄チェック表を活用してパターンを把握して、適切な時間に声掛け誘導している。ポータブルトイレの使用者はなく、布パンツ使用で自立の方が3人、リハビリパンツとパットの併用者が12人、オムツ使用者が3人となっている。在宅時より改善されている方が多く、現状維持を目指してケアに当たっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションを通して適度な運動量と水分補給を促し摂取するなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望に関しては、朝の会で入居者の意向を確認し、入浴してもらっている。	近隣の温泉から温泉水を1日おきに運んでおり、入浴は毎日可能となっている。希望があれば、併設デイサービスの浴室を利用した入浴サービスも提供している。利用者は概ね1日おきに入浴している。2、3人ずつでの入浴となっており、利用者同士の会話と憩いの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の落ち着く場所にベッドを置いて休んでもらっている。本人の状況等配慮しながら、過ごしやすい環境には配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。与薬に関しては確認表を作成し誤薬の無いように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ好きな利用者様が多く、日々のレクリエーションの中に取り入れたり、男性利用者が少ないこともあり、男子会を行ったこともあった。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年コロナウィルスの為、ご家族様との外出はほとんどなく、施設行事での外食も控えているが、ドライブはその日の天気により、利用者へ聞きながら柔軟に対応している。	普段であれば、家族との外出や行事、イベントなどで出かけていたが、コロナ禍のために大半の外出を控えている状況にある。その中でも、事業所周辺の散歩に出かけたり、利用者の要望を受けてのドライブなどを行っている。ドライブといっても車窓から外の景色を観たりするだけだが、それでも利用者の気持ちは和らぐと感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則利用者の金銭所持はなくホームで小口現金として管理している。例年であれば買い物会などの行事を企画し金額を決めて購入できる場を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールに、季節の花を飾り、また利用者と共に作った壁飾り等掲示している。床暖、空気清浄機で適切な環境を整備している。「トイレ」の表示は利用者の目線に合わせて低い位置に貼っている。	広々としたホールには、テーブルや椅子が配置され、利用者はユニット内の思い思いの場所で寛いでいる。室温は床暖房とエアコン、加湿器等で快適に管理されている。壁面には季節感のある貼り絵や、利用者が書いた習字作品も飾られ、暖かい雰囲気を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事など、なじみの利用者同士で楽しく食べられるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。	居室はエアコンと床暖房で適温に管理され、ベッドとクローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は、好みの椅子や衣装ケース、テレビ、家族写真、仏壇等を持ち込み、自身の手芸作品や塗り絵等を飾っており、居心地の良い空間となっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里 やまぶき棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前等の表示することで迷わないよう配慮している。		